【令和２年度】

「新型コロナウイルスが観光活動に及ぼす影響」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、インバウンド需要が急落するなど、観光産業は大打撃を受けている。

また、先般、緊急事態宣言が解除されたが、今後も次の感染の波に備えつつ、「新しい生活様式」への転換など、府民の暮らしや経済活動をはじめとした社会生活全般において、コロナとの共存を見据えた対応が求められているところ。

このような中、コロナが観光活動（※）に及ぼした影響をはじめ、緊急事態宣言解除後の観光ニーズ・課題等を抽出し、需要喚起のための新たなターゲットの見極めや観光施策のコンセプトを検討することを目的に本調査を実施する。

（※）観光活動

日常の生活圏を離れて、「観光・行楽」「娯楽」「趣味・創作」「スポーツ」等を目的として、他の土地を訪れること。

1. 調査（検証）項目

　　　仮説１

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光活動（お出かけ）のエリアが狭まっている。

仮説２

「新しい生活様式」での府民の観光に対する意識は、観光地そのもの等の魅力と同様に、いわゆる「三密」を避けた対策を実施している等、感染防止対策がなされているか否かを重視する傾向がある。

1. 調査対象

　　　近畿2府4県（大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県）の在住者のうち、昨年1年間（2019年1月～2019年12月）で観光活動をした人1,000サンプル

1. 質問項目

■予備質問　5問

　　　SC１　性別（SA）

SC２　年齢（NA）

SC３　都道府県（SA）

SC４　昨年1年間（2019年1月～2019年12月）での観光活動の有無（表組SA）

SC５　家族構成（MA）

■本質問　1７問

Q１　昨年7月から12月までと、今年7月から12月までの観光活動の比較（SA）

Q２　昨年7月から12月までと、今年7月から12月までの観光活動の見込み（表組NA）

Q３　普段の観光活動の形態（表組SA）

Q４　今後の観光活動の形態（表組SA）

Q５　これまでの観光活動で重視していたポイント（MA・最も重視するもの１つ）

Q６　今後の観光活動で重視したいポイント（MA・最も重視するもの１つ）

Q７　昨年7月から12月までの大阪府内での観光活動（SA）

Q8　【昨年7月から12月までに大阪府内で観光活動をした】昨年7月から12月までに大阪

府内で観光活動をした際の主な目的（MA）

　　　Q９　【（昨年7月から12月まで）人気の観光スポットでの活動】具体的な訪問先（MA）

Q10　【（昨年7月から12月まで）人が密集しないスポットでの活動】具体的な訪問先・活動（MA）

Q11　今年7月から12月までにおける大阪府内での観光活動の意向（SA）

Q12　【今年7月から12月までに大阪府内で観光活動をしたい】大阪府内で観光活動する際の主な目的（MA）

Q13　【（今年7月から12月まで）人気の観光スポットでの活動】具体的な訪問先（MA）

Q14　【（今年7月から12月まで）人が密集しないスポットでの活動】具体的な訪問先・活動（MA）

Q15　【今年7月から12月までに大阪府内で観光活動をしたい】今年７月から12月までに大阪で宿泊旅行をする予定（SA）

Q16　【大阪で宿泊旅行をする予定はない】大阪を宿泊旅行先として選ばない理由（MA）

Q17 　世帯年収（SA）

1. 検証方法

　　　仮説１：Q２

　　　仮説２：Q３×Q４、Q５×Q６、Q８×Q12